

# PANECO® Sustainable Furniture × igarashi design studio

PANECO® を使用した3種類の家具 - Box・Cube・Shelf - の提案です。

3種類ともにユニット家具(組合せ家具)となります。

1ユニットで使用でき、積む、並べることで1ユニットが空間に合わせて拡張、組み替えをすることができます。

部屋を変化させたい時、5年後、10年後に別の場所に移動する時にも

ユニットは新たな空間に合わせて姿を変え、長く使い続けることができます。

家具に刻まれた時間、ストーリーを慈しむ。

使っていくうちに端が丸くなったり、表面が経年変化して、永いお付き合いをした証が現れます。

PANECO®は、もともと衣類製品でした。未消費品、残布、端切、デッドストック、ユーズド…

そうした品々が、素材となってまた新たにパネルとしてアップサイクルされました。

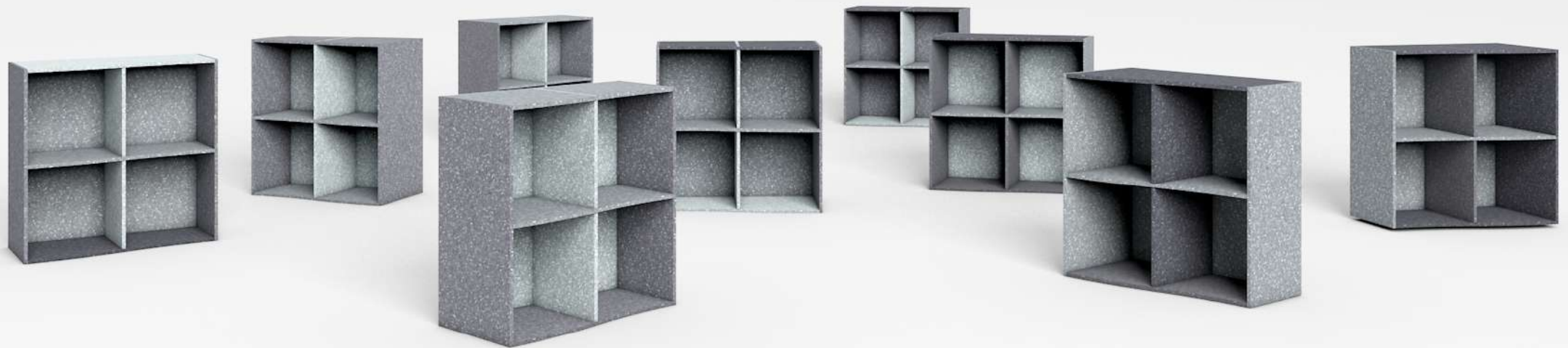
ひとつ一つのパネルは違って、斑があったり不揃いです。同じものはなく、すべてが超個性品。

30年、50年と使って、いよいよ手放す時には、またPANECO®に再生できる。

リユースとリサイクルを繰り返す、スーパーロングサイクルとも言うべき、

廃棄という言葉捨てたサスティナブルファニチャーの提案です。

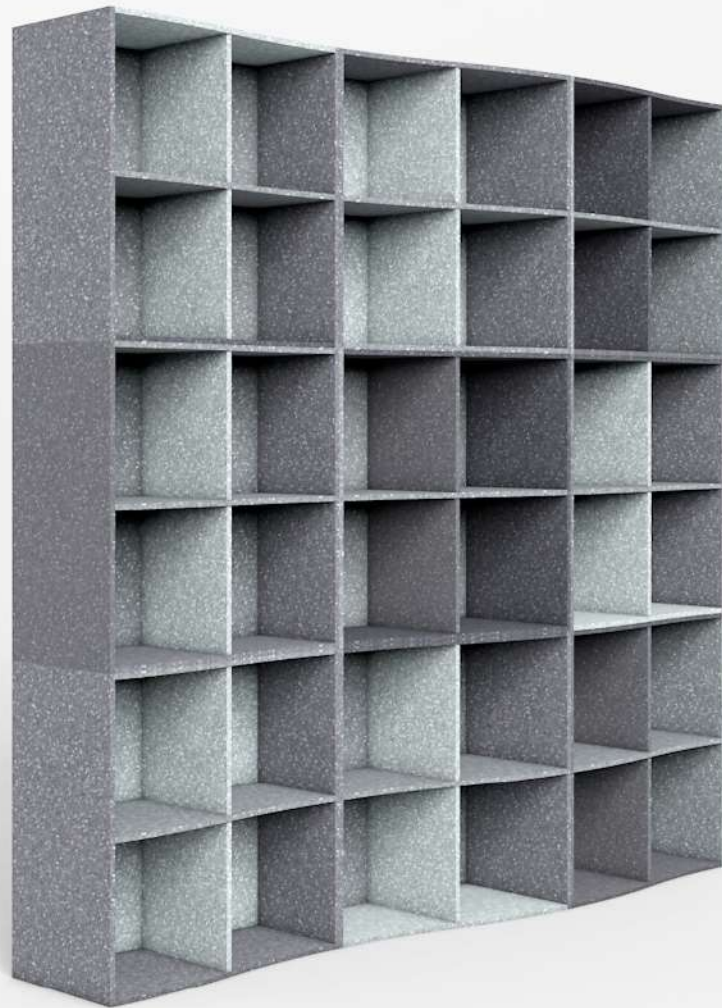
# BOX diagram1



# BOX diagram2



# BOX diagram3

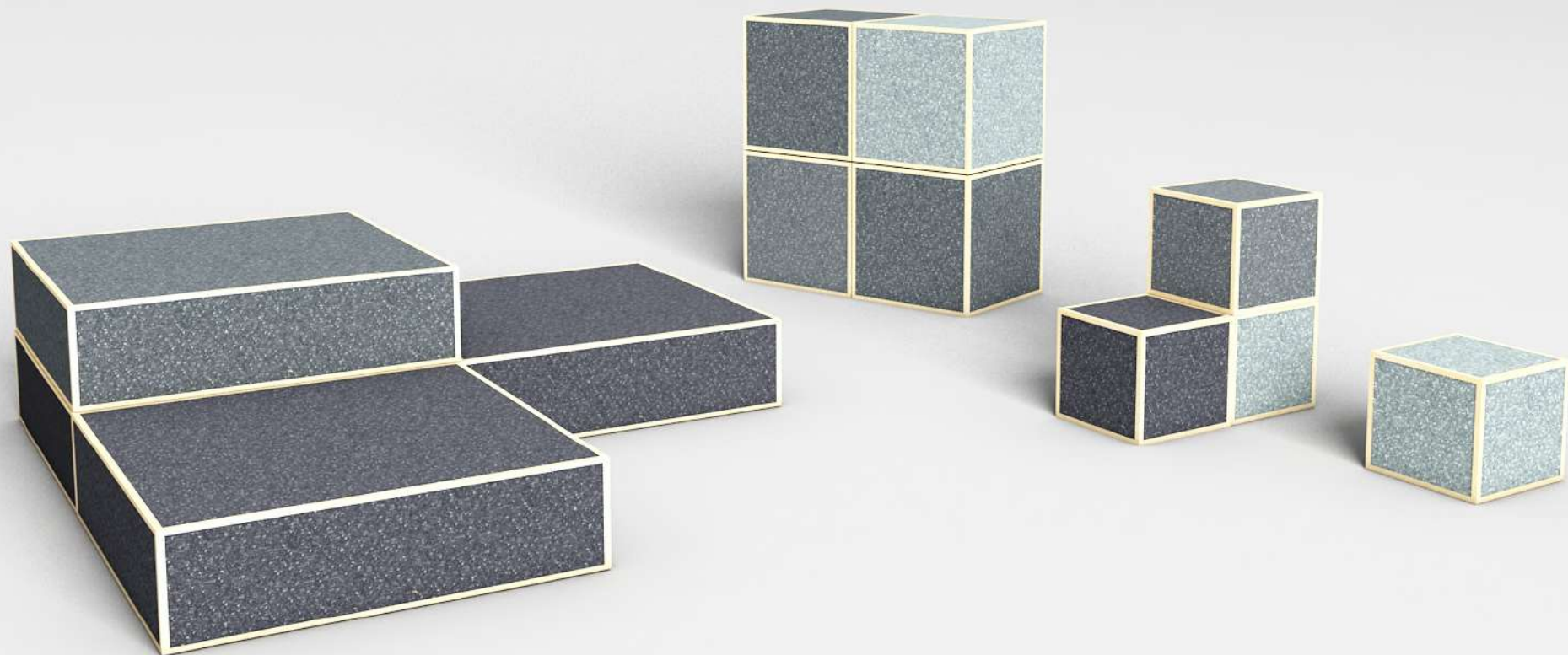


# Cube diagram1





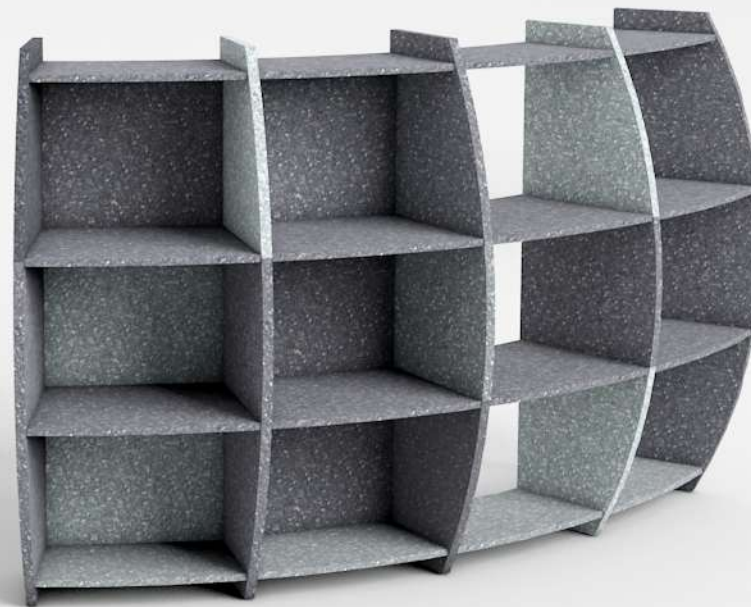
# Cube diagram2



# Cube diagram3



# Shelf diagram1





# Shelf diagram2





## 一枚一枚の顔

不均一な製品が醸し出す表情は、天然素材の石や砂のように粒子が重なり合い、それぞれ異なるものが生まれる。無機質なコンクリートのように沈黙の顔、土のように以前からそこにあるという顔、新品もあれば時間が経っている中古の顔もある。廃棄されなかった衣料品を原料とする所以が表出されるのが「PANECO」である。キラリと新しさが混入したもの、潜在的な穏やかさが漂うもの、ちょっとくたびれ気味のもの。一枚一枚の顔にそれぞれの特徴があり魅力があると感じられた。使い込まれた時間、過去もそこに現れている。その顔々がインテリアやモノとなって空間に漂う光景は、今まで見てきた懐かしさとは一味違う少し新鮮な空気を運び入れるのだろう。まだ使えるものを活かす、何度でも活かす。以前は当たり前だったことをまた今の当たり前にする。循環させることは私たちの工夫次第であり、新しいもの、古いもの、その中間のもの、それぞれのいいところをもっと知り伝えることをこれからも考えていきます。

五十嵐久枝